



口開ける金魚欠伸にちがひない

吉川正紀子

おいおい、大丈夫か。大口あけて酸欠かと心配したが、なんだ欠伸か。金魚にも退屈があるんだなあ。ときどき話しかけたりからかってやるか。



風鈴の百の共鳴百の揺れ

西野周次

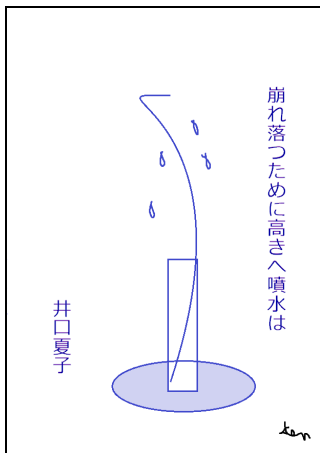
それぞれの音色に特徴があるもので、競い合うときの騒擾はかなりのものだろうね。作者は音色だけでなく揺れ方にもそれぞれの個性を見た。



まつすぐに日本の文化松の芯

工藤泰子

松の芯は如何なる場合でも直立する。その端正は日本の伝統美に通ずる。松の生命力は、日本人が称え愛してきためでたきものでもある。



崩れ落つために高さへ噴水は

井口夏子

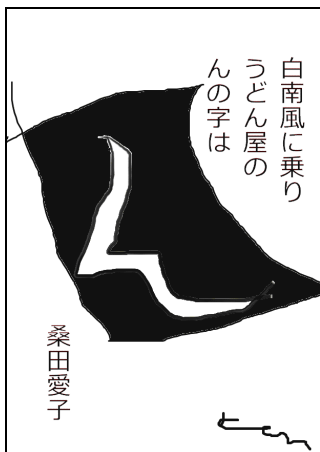
噴水は少しでも高い所へと勢いよく噴出する。より高きを目指すのが噴水の重要課題だと思っていたが、崩れ落ちるためだったとは発見である。



器量とは魚にもあり捨て鯰

久松久子

魚にも美人不美人鯰にも、というところか。しかし、鯰も虎魚もあの顔だからいい。ほっそりすっきりした顔の魚だけになると魚図鑑もつまらん。



白南風に乗ろうどん屋のんの字は

桑田愛子

梅雨明けの軽やかな風に旗が揺れている。よく見ると「う」や「ど」よりも「ん」の字が一番風になびいている。文字からのインスピレーションだね。